

ふじのくに「花の都しずおか」推進計画

計画期間：令和4年～7年度



ふじのくに
花の都
しずおか

令和4年3月

静岡県

目 次

1 位置づけ	1
(1) 計画策定の趣旨	1
(2) 計画の位置づけ	1
(3) 計画期間	1
2 目標	2
(1) 基本目標	2
(2) 計画のポイント	2
3 施策	5
施策1 花き生産の振興	5
施策2 花の文化の継承と創造	8
施策3 人材の育成と活動支援	10
施策4 情報の集積・発信	11
4 主要品目別の振興計画	12
(1) キク	12
(2) バラ	14
(3) ガーベラ	16
(4) 切枝	17
5 推進方法	18
.....	
参考	19
1 現状のデータ	19

1 位置づけ

(1) 計画策定の趣旨

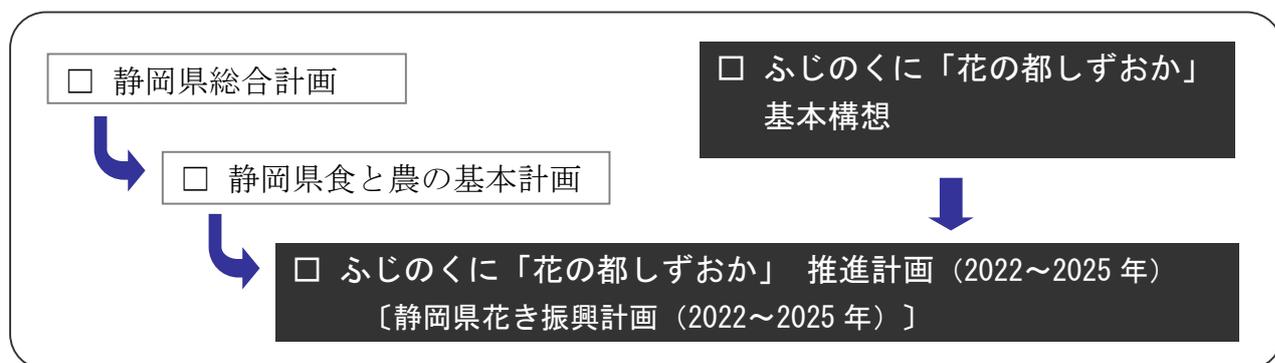
静岡県は全国屈指の多彩で高品質な花の生産県であり、一年を通して花を楽しむ名所や花に関わる人材も豊富である。こうした潜在的な「場の力」を最大限に活用し、新たな花の需要の創出や花き生産の振興を図り、暮らしの様々な場面で花と緑があふれるふじのくに「花の都しずおか」を実現する。

このため、「花の都」づくりの基本的な考え方を示した「ふじのくに『花の都しずおか』基本構想」と基本構想の実行計画である「ふじのくに『花の都しずおか』推進計画」を2014年（平成26年）に策定した。

今回、2022年度（令和4年度）からの4年間に向け、新たな成果目標等を設定し、計画を策定する。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、花き産業と花きの文化の振興を目的とした花きの振興に関する法律（平成26年法律第102号）第4条に基づく計画であり、また、「静岡県の新ビジョン（総合計画）」の8-5 農林水産業の競争力の強化、並びに9-1 魅力的な生活空間の創出と整合性ある計画として定める。



(3) 計画期間

□ 計画期間：2022年度（令和4年度）～2025年度（令和7年度）の4年間

※ 静岡県総合計画 静岡県食と農の基本計画の計画期間

2 目標

(1) 基本目標

「花の都」づくりの基本目標を次の6つの項目とし、目標の達成を目指し推進計画において施策を実行する。また、主要品目別に産出額、生産量、作付面積の目標（別表）を設定し、花きの生産振興を図る。

目標名	基準値	目標値	目標値の説明
花き産出額	153 億円 (令和2年)	189 億円 (令和7年)	県産花きの産出額の増加を目指す。
花き県内流通額	103億円 (令和元年)	120億円 (令和7年)	県内花き市場及びファーマーズマーケットの花き流通額の増加を目指す。
先端技術導入や 新品目転換の実 証に取り組む地 区数		毎年2地区	先端技術や新規品目の導入を通じて、生産体制を強化を目指す。
環境制御技術の 導入面積（花）	8 ha	9 ha	環境制御装置の導入により、生産性向上を図る。
環境制御技術習 得勉強会（花）		毎年2回	スマート農業技術の普及に向けた勉強会を通じて、生産性の向上を図る。
花育講座受講数		毎年2,400人	地区や学校等における花育活動の推進を目指す。

(2) 計画のポイント

- 担い手減少や経営コスト増加への対策として、生産性向上や省エネ等につながる先端技術を導入し、今後も持続する花き経営の確立を推進
- 業務需要の減少や消費特性が変化する中、消費者ニーズに応じた品目の導入や転換等を強化
- 県内における花き消費喚起を図るため、花に親しむ機会の創出や若年層への花き消費提案の実施

(別表)

品目別生産目標

品目	項目	令和元年 (a)	令和2年	令和7年 (ビジョン目標年) (b)	伸び率 (b/a)
キク	産出額 (億円)	24	23	26.3	109.6
	生産量 (千本)	45,300	44,400	48,000	106.0
	作付面積 (ha)	156	152	150	96.1
バラ	産出額 (億円)	18	14	19.8	110.0
	生産量 (千本)	20,000	19,200	23,250	116.3
	作付面積 (ha)	30	29	31	103.3
ガーベラ	産出額 (億円)	15	14	19.4	129.3
	生産量 (千本)	56,300	52,900	61,560	109.3
	作付面積 (ha)	26	25	27	103.8
切枝	産出額 (億円)	18	16	23.5	130.6
	生産量 (千本)	31,500	31,200	32,300	102.5
	作付面積 (ha)	419	421	430	102.6
観葉植物 (鉢)	産出額 (億円)	18	19	20.2	112.2
	生産量 (千鉢)	4,880	4,970	5,080	104.1
	作付面積 (ha)	22	22	22	100.0
洋ラン (鉢)	産出額 (億円)	14	11	12.8	91.4
	生産量 (千鉢)	746	593	692	92.8
	作付面積 (ha)	9	8	8	88.9
花き合計	産出額 (億円)	164	153	189	115.2
	生産量 (-)	212,300	208,600	222,900	105.0
	作付面積 (ha)	840	834	820	97.6

生産農業所得統計、花き生産出荷統計、花木等生産状況調査 (農水省)

ふじのくに「花の都しずおか」推進計画



本県花きの現状と課題

現状

【生産】

- 産出額全国4位（R2）全国有数の花き生産県 全国シェアの5%を占める。
- 花き栽培面積 834ha、花き生産者数 1671戸
- 省エネ暖房設備（ヒートポンプ導入） 31.1ha
- 農林技術研究所での新品種育成
マーガレット40品種、スプレーギク3品種
- 花の都しずおか大商談会の開催支援（H27～）

静岡県の花き産出額（億円）

年	H12	22	29	30	R元	2
産出額	231	177	166	157	164	153

【文化】

- 花緑コンクール応募数 195点（R3）
うち、SNSフォトコンテスト 128点
- メンテナンスフリーゼリーの開発と普及推進
- 公共施設での花展示（R2） 1,899回
- 「HANA、贈ろう。」キャンペーンの展開（R2）

【人材】

- 小中学校への花配布 延べ817校、花育授業 26校（R3）
- 花育活動実践者（ふじのくに花の都しずおかアドバイザー）育成 104人（H26～R3年）
- 花緑出張サービス受講者数 2,424人（R2）

【情報】

- 協議会ホームページ閲覧数 21,755件（R3年4月からR4年1月末）
- 生産現場、名勝などの動画作成・配信

課題

- 業務需要の減少や生活様式の変化に伴う新たな花き需要への対応
- 生産資材や燃油の高騰に伴う生産・流通コストの増加
- 担い手不足による生産基盤の弱体化
- 日常生活における花を飾る・贈る機会の減少
- 切り花、園芸用品の年間購入額の減少、若年層への花装飾文化の浸透が進むが低い切花購入額
- 花育活動アドバイザーの活動機会の減少
- 花きに関する情報提供と多様な発信方法への対応

施策1 花き生産の振興

- ① 経営体の支援による産地体制の強化
 - ・認定農業者、法人等の多様な担い手への活動支援
 - ・経営安定に向けた品目転換の支援
 - ・自然災害等のリスクに対応した各種制度の活用支援
- ② 新たな生産技術の開発と普及
 - ・新たな需要を創出する品種の開発・導入と普及
 - ・スマート農業技術など先端技術の活用推進
 - ・脱炭素等の環境に配慮した持続可能な生産活動推進
- ③ 時代に対応した流通体制の整備と販路の拡大
 - ・商談会・展示会の開催、参加支援
 - ・県産花きの海外販売への取組推進
 - ・様々な販売形態に対応した流通体制の構築



施策2 花の文化の継承と創造

- ① 花を取り入れた生活の提案
 - ・若い世代にも対応したSNSを活用した普及推進
 - ・職場や地域を対象としたコンクールの開催
- ② 県民に県産花きを利用してもらう取組
 - ・記念日に花を贈る意識の高揚
 - ・日持ちや手入れの簡便さによる花の楽しみ方の提案
- ③ 花と緑にあふれた美しい地域づくり
 - ・人々が集う場所で花や緑の利用の促進



施策3 人材の育成と活動支援

- ① 子供の頃から花に親しむ機会の増大
 - ・花育活動実施者の育成と活動の支援
- ② 花・緑に取り組む地域の担い手づくり
 - ・アドバイザーの活動支援による地域の担い手育成
- ③ 人材のネットワーク化
 - ・「ふじのくに花の都しずおか推進協議会」、「地域花の都推進協議会」の運営



施策4 情報の集積・発信

- ① 花に関する情報の集積・発信
 - ・花に関する様々な情報を集め、蓄積、発信
- ② 「花の都」の情報発信
 - ・ウェブサイトやSNS、情報誌などの有効活用
- ③ フラワーツーリズムの推進
 - ・観光産業と連携による花に親しむ機会の増大



春夏秋冬
花と緑があふれる
ふじのくに『花の都』しずおか

数値目標

（令和4年 → 令和7年）

- 花き産出額 153億円 → 189億円
（令和2年）
キク 23億円 → 26.3億円
バラ 14億円 → 19.8億円
かへら 14億円 → 19.4億円
切枝 16億円 → 23.5億円
- 花き県内流通額 103億円 → 120億円
（令和元年）
- 先端技術導入や新品目転換の実証に取り組む地区数 毎年2地区
- 環境制御技術の導入面積（花） 8ha → 9ha
- 環境制御技術習得勉強会（花） 毎年2回
- 花育講座受講者数 毎年2,400人

3 施策

施策1 花き生産の振興 ～ 世界に誇れる 花づくり ～

花きの生産者の経営能力を高めることにより、産地体制の強化を図る。また、新品目、新品種の導入や最新技術の導入による生産性の向上を図ることにより、花きの生産振興を図る。

1 経営体の支援による産地体制の強化

(1) 認定農業者、法人等の多様な担い手への活動支援

- 経営体に対して技術及び経営に関するコンサルティングによる伴走型支援を行うことにより、経営改善を図り、個別経営及び産地体制の強化を図る。
- 農業外からの新規就農や企業の参入を支援するとともに、担い手育成に関わる農協等関係機関との連携強化を図り、新たな担い手を確保する。
 - ・ 県の担い手対策と連動した新規就農と企業参入の促進
 - ・ 花き生産に必要な基本的な技術や経営管理能力の習得等資質向上を推進
- 遊休農地や遊休ハウスの流動化を進めるとともに、効率的な生産のために農地の集積を図る。
 - ・ 枝物等の新品目導入による耕作放棄地の解消と遊休ハウスの活用促進
- 温室、ハウスなどの生産施設や効率的な育苗、集出荷・調整施設、販売施設などを整備するとともに生産団地化を推進し、産地体制の強化を図る。
 - ・ 計画の策定支援と各種補助事業・資金の活用促進

(2) 経営安定に向けた品目転換の支援

- 消費者需要の高い品目や品種、作期などを組み合わせ周年出荷のできる栽培体系の構築を図る。
 - ・ 枝物等の新品目導入による耕作放棄地の解消と遊休ハウスの活用促進

(3) 自然災害等のリスクに対応した各種制度の活用支援

- 自然災害による収入減少や燃油高騰等のリスクに対して、各種セーフティネットへの加入促進や利用拡大の取組を進める。

2 新たな生産技術の開発と普及

(1) 新たな需要を創出する品種の開発・導入と普及

- 静岡県農林技術研究所において新品種の育成を進めるとともに、県内花き生産者が行う育種に関する取組を支援する。

- ・ 農林技術研究所におけるキク、マーガレット等の新品種の開発
- ・ 生産者が行う育種や育成品種の維持・増殖のための技術情報を提供
- マーケットインの視点に立った新しい生活様式に対応し、ホームユースに適した花き品目・品種の選定・導入を推進する。

(2) スマート農業技術など先端技術の活用推進

- 栽培管理を軽減するための統合環境制御システムや、栽培環境の「見える化」を進めるための環境モニタリング装置等の導入を進める。
- 低コスト耐候性ハウスの導入や育苗・出荷調整の共同化などを推進し、生産コストの削減を図る。
- デジタル技術の活用による農業DX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、効率的な生産・物流の変革を図る。
- 生産工程の見直しによる作業効率の向上とコストの低減を図る。
- 高品質・高付加価値型安定生産技術と計画出荷の基礎となる大規模・周年・多収生産技術を確立し普及を図る。

〔具体的な方策は「主要品目別の振興計画」の項を参照〕

(3) 脱炭素等の環境に配慮した持続可能な生産活動推進

- 脱炭素社会の実現に向けて、燃油価格高騰の影響の少ないヒートポンプの導入や変温管理技術の開発等の省エネルギー低コスト生産の積極的な活用を図る。
- 温暖化等の気候変動による生理障害や収量低下の回避・軽減に向けて、夜間冷房や細霧等の高温対策技術の導入支援及び開発普及を図る。
- 環境への負荷を軽減し持続性のある花き生産を進めるため、エコファーマーや花き産業総合認証（MPS）、農業生産工程管理（GAP）などの認証を受ける生産者の取組を支援する。
- 土壌や作物に応じた適正な施肥方法や総合的病害虫管理・雑草管理（IPM）の導入など、環境負荷を低減する施肥方法や病害虫防除体系の普及を図る。

〔具体的な方策は「主要品目別の振興計画」の項を参照〕

3 時代に対応した流通体制の整備と販路の拡大

(1) 商談会や展示会の開催、参加支援

- 生産者や生産者団体の商談会や展示会の開催を支援し、特色のある本県産花きの消費拡大を進める。
 - ・ 県内の鉢物、花壇苗生産者が一堂に会する「花の都しずおか大商談会」の開催とともに商談サイトの充実を図る
 - ・ 静岡県花の展覧会の開催支援

(2) 県産花きの海外販売への取組推進

- 県内産花きの海外での販路拡大に向けての取組を推進する。
- 輸出に向けたパッケージング、保管方法の技術開発を支援する。
 - ・ 市場および現地バイヤーと連携による、需要の高い静岡県産花き品目選定や需要動向等の調査と試行、販売への展開

(3) 様々な販売形態に対応した流通体制の構築

- 農林技術研究所が開発した日持ち性向上技術について、関係団体と連携して利用拡大を図る。
 - ・ 花き関係団体との連携による、農林技術研究所が開発した日持ち性向上技術の普及促進
- 運転手不足により物流が困難になってきている鉢物生産において、効率的な輸送方法など、集出荷場の物流システムを検討する。
 - ・ 輸送に関する産地間の連携強化による集荷体制の整備や集荷施設の集約支援など物流の改善・効率化の検討
- 販売や流通形態の多様化に対応した産地ブランド化に向けた商品提案力を強化する。
- 新しい生活様式に対応したホームユース需要を掘り起こすため、インターネットでの販売や定期配送サービス（サブスクリプション）等、新たな販売活動の取組を支援する。

伝統や歴史・文化を踏まえた花を取り入れた生活の提案や県産花きを県民に届ける仕組みづくり、花と緑にあふれた地域づくりを進め、新たな需要を創出し、様々な場面で花のある暮らしを実現する。

1 花を取り入れた生活の提案

(1) 若い世代にも対応したSNSを活用した普及推進

- ライフスタイルの変化によるホームユース需要の高まりを生かして自宅での花緑の活用方法、花の効能などについて、花を楽しめる情報をSNSを通じて発信し、日常生活における花文化の定着を図る。
 - ・ 本県産花きの特徴や技術、使い方などSNSを通じて情報発信
 - ・ 花に関わる人材育成を図るため、若い世代を対象としたフラワーデザインコンテストを開催（隔年）

(2) 職場や地域を対象としたコンクールの開催

- 職場（企業、飲食店、宿泊施設、病院、福祉施設）や地域、学校、個人などの暮らしの様々な場所の花・緑の装飾に関わるコンクールを開催し、優良な事例を広く紹介することにより花の活用を推進する。
 - ・ ふじのくに花の都しずおか・花緑コンクールの実施（隔年）
 - ・ コンクールの優良事例を紹介し、花・緑の活用を推進

2 県民に県産花きを利用してもらおう取組

(1) 記念日に花を贈る意識の高揚

- 生産者団体や流通・小売関係者が連携して実施する「フラワーバレンタイン」「いい夫婦の日」などの記念日に花を贈るキャンペーンを支援する。
 - ・ 県内の花き関係団体と連携したキャンペーンの実施

(2) 日持ちや手入れの簡便さによる花の楽しみ方の提案

- 県農林技術研究所が開発した日持ち性向上技術について、県内花き小売店等と連携した商品開発を進め、商品の利用拡大および県産花きの消費拡大を推進する。
 - ・ 日持ち性向上技術を活用したメンテナンスフリー切り花の商品化の推進
 - ・ 販売戦略の策定や販路開拓の支援
 - ・ 日持ち保証販売に対応した生産現場における衛生管理や出荷技術の確立と普及

3 花と緑にあふれた美しい地域づくり

(1) 人々が集う場所で花や緑の利用の促進

- 商店街や学校、公共施設、飲食店、病院、福祉施設など人々が集う様々な場所で、花や緑の利用を進め、花・緑を愛する地域性を培う。
 - ・ 市町や団体などと連携した商店街、学校などの花装飾の実施
 - ・ 「ふじのくに花の都アドバイザー」による花緑出張サービスの実施
 - ・ 「ふじのくに花の都しずおか・花緑コンクール」の実施
 - ・ 優良事例を表彰しPR
- 緑地帯や壁面緑化、屋上緑化などによるヒートアイランド現象の緩和など地球環境負荷を軽減する取組を推進する。
 - ・ 企業での取組の紹介
- オープンガーデンを地域に広く普及するため、各地で組織されているオープンガーデン関係団体の交流促進や講習会を開催する。
 - ・ 県内オープンガーデン団体の交流会の開催

「花の都」づくりを担う人材の育成と活動を支援するとともに、花き関係機関・団体や教育・文化関係者と連携し「花の都」づくりを進める。

1 子供の頃から花に親しむ機会の増大

(1) 花育活動実施者の育成と活動の支援

- 幼少期から花に親しみ育てる機会を増やすための花育活動を推進する。
 - ・ 小学生を対象とした県産花きを利用したフラワーアレンジメントの配布、製作

2 花・緑に取り組む地域の担い手づくり

(1) アドバイザーの活動支援による地域の担い手育成

- 花に関する栽培や花壇づくり、装飾などの技術や学術的な知識を持った「ふじのくに花の都アドバイザー」を登録し、活用を図る
- 「ふじのくに花の都アドバイザー」の活動支援を通じて、地域で花・緑の活動をする担い手を育成する。
 - ・ ふじのくに花の都アドバイザーなどによる地域の花緑団体などの指導

3 人材のネットワーク化

(1) 「ふじのくに花の都しずおか推進協議会」、「地域花の都推進協議会」の運営

- 県内花きの生産、流通、販売、文化に関する団体で構成する「ふじのくに花の都しずおか推進協議会」で、「花の都」に関する実施方針を定め、「花の都」づくりに取り組む。
- 地域においては、市町、生産者団体、生花・園芸店、オープンガーデン開設者、花の会及び県農林事務所などで構成する「地域花の都推進協議会」の中で、地域の実情に即した「花の都」づくりを進める。

花に関する様々な情報を集積・蓄積するとともに、歴史・文化に裏打ちされたふじのくに「花の都しずおか」を発信し、国内外からの誘客を図る。

1 花に関する情報の集積・発信

(1) 花に関する様々な情報を集め、蓄積、発信

- 花の歴史、文化的価値や生活に与える効果（効用）を収集し、広く情報発信することで、県民の花と緑に関する興味・関心を高め、花と緑の利用拡大を図る。花の文化的価値や生活に与える効果（効用）の知見の収集と提供する。
- 花や緑が美しい名所や施設、花の産地、県産の花を販売するこだわりの店、花に関わる文化・歴史など、花と緑の資源情報の収集・集積する。
 - ・ 情報の収集とウェブサイトなどでの情報発信

2 「花の都」の情報発信

(1) ウェブサイトやSNS、情報誌などの有効活用

- ふじのくに「花の都」をPRするウェブサイト等による情報発信を行う。
 - ・ ふじのくに「花の都しずおか」ウェブサイトや各地域協議会での情報発信

3 フラワーツーリズムの推進

(1) 観光産業との連携による花に親しむ機会の増大

- 観光業者などへ花・緑の資源を紹介し、フラワーツーリズムの商品化を促進。
 - ・ 県内の花の名所を撮影した動画やウェブサイトなどによる紹介

4 主要品目別の振興計画

(1) キク

ア 現状

輸入の増大、原油高騰の影響などにより、生産量、産出額ともに減少傾向にある。

令和2年の本県のキク作付面積は152ha、生産量4,440万本、産出額23億円
で全国第6位の生産県である。主産地は、浜松市、湖西市である。

本県の輪ギク、スプレーギクは、愛知県などと同様に周年生産・出荷している。他の主要県の年間作付回数が輪ギクで3作、スプレーギクで3.5作程度であるのに対し、本県はともに2作が主流である。主要県の輪ギク色別作付割合は、白60%、黄30%、赤10%であるが、本県は白30%、黄60%、赤10%と黄色の作付出荷割合が高く、黄色の輪ギク産地として高い評価を受けている。

また、スプレーギクでは、オリジナル品種を有していることが特徴として挙げられる。

【データ】

年度	H30	R元	R2	R7 目標	R7/R 元
産出額(億円)	23	24	23	26.3	110%
作付面積(ha)	156	156	152	150	96%
10a当たり出荷量(千本)	29	29	29	32	110%

イ 課題と振興方策

現状と課題	振興方策
① 彼岸や盆、年末等の物日出荷を主体とする生産であり、計画的に周年安定出荷のできる産地体制を確立する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 担い手の規模拡大を支援し産地規模の維持発展を図るとともに、周年安定出荷体制を整備する。 収穫期集中化技術の開発や作期短縮可能な系統・品種の育成により年間3作を図り、収益の安定を図る。 低コスト耐候性ハウスの導入や遊休ハウスの活用による規模拡大を推進する。 輪ギクと多品目を組合わせた経営の推進により、収益性の向上による経営の安定化を図る。

<p>② 今後、家族労働力の高齢化に伴う規模の縮小等により生産の減少が予想されることから、労働力の確保対策、省力化技術の普及等が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芽摘み作業が少ない省力的な品種の開発・導入、直挿しや無摘芯栽培技術の普及による省力化を推進する。 ・ 収穫作業や選別作業などの出荷調整施設の整備を進め、生産者の集出荷作業を軽減し、労働力の不足を解消する。 ・ リタイヤした生産者の生産基盤を地域で引継ぎ、産地規模の維持を図る。
<p>③ 輸入花きや他産地との競争の激化、景気後退による価格の低迷等から、産地ブランド化による産地競争力の強化が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 優良系統やオリジナル品種の導入により、産地ブランド化による産地競争力の強化を図る。
<p>④ 切花価格が伸び悩む中で、重油や生産資材価格の高騰により、生産コストが増大しており、単収の向上等による所得の確保が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場占有期間短縮による年間作付数の増加や秀品率向上により単位面積当たりの収益を向上し、所得の確保を図る。 ・ 変温管理や炭酸ガス施用などの高品質安定生産技術の確立を図る。 ・ ICT 技術を活用した環境モニタリングや統合環境制御システムの導入による安定出荷や高品質化を推進するとともに、施設の整備を支援する。
<p>⑤ 環境に配慮した生産への取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ IPM 等に基づいた病害虫管理、土壌分析等に基づいた施肥管理により、環境負荷の少ない生産を実践する。

(2) バラ

ア 現状

生産者の減少と販売単価の低迷により作付面積や産出額が減少傾向にある。また、原油高騰などによる生産コストの上昇のため、収益性も悪化している。

令和2年の産出額は14億円、作付面積は29haで減少傾向にある。

現在、県下一体で生産・販売に取り組んでいるが、価格の低迷により輸入花きや他県産地との産地間競争が激しさを増している。他産地と比較してスプレー系品種の割合が高く、周年出荷産地としての評価が高い。また、施設内の環境計測装置や高度環境制御装置の導入が普及してきている。

【データ】

年度	H30	R元	R2	R7 目標	R7/R 元
産出額(億円)	17	18	14	19.8	110%
作付面積(ha)	34	30	29	31	102%
10a当たり出荷量(千本)	60	67	65	75	112%



イ 課題と振興方策

現状と課題	振興方策
① 重油や生産資材価格の高騰により、生産コストが増大しており、コスト削減技術の導入が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ICT技術を活用した環境モニタリングや統合環境制御システムの導入による安定出荷や高品質化を推進するとともに、施設の整備を支援する。 ヒートポンプの周年利用及び冬季補光、炭酸ガス施用等により、単位面積当たりの生産性の向上を図る。 採光性及び保温性の高い被覆資材の導入により、生産性の向上を図る。 低コスト耐候性ハウスの導入や遊休ハウスの活用、リースハウスによる規模拡大により、生産コストの削減や省力化を図る。

<p>② 輸入花きや他産地との競争の激化、景気後退による価格の低迷等から、産地ブランド化の確立による産地競争力の強化が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナル品種の育成・導入により産地ブランド化を図る。 ・ バケット輸送、前処理剤の利用等の鮮度保持技術を導入することにより、日持ち保証に対応できる生産・流通システムを確立し、産地競争力の強化を図る。 ・ 首都圏での販売促進活動を推進することにより、産地ブランドの確立を図る。
<p>③ 環境に配慮した生産への取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日射量や排水量に応じた給液技術、養液分析等に基づいた施肥管理により、環境に負荷の少ない生産に取り組む。 ・ IPMに基づいた病虫害防除により、環境負荷の少ない生産を実践する。 ・ 養液栽培の排水や培地を適切に処理し、環境に配慮した生産を実践する。
<p>④ 高温障害対策および秋季の収量低下等の対策への取組みが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒートポンプを活用した夜間冷房、遮光・遮熱資材、ミスト噴霧等を活用した高温障害対策を実施し、植物への影響を抑える。
<p>⑤病虫害対策の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養液栽培での立枯れ病対策技術の確立 ・ ヒートポンプや送風機を利用した灰色かび病対策技術の確立 ・ 農薬と天敵利用を組合わせたハダニ防除技術の確立

(3) ガーベラ

ア 現状

景気の後退による価格の低迷や原油高騰などの影響により、生産量、産出額ともに減少傾向である。

令和2年の本県のガーベラ作付面積は25ha、生産量5,290万本、産出額14億円で全国第1位の生産県である。国内のガーベラ生産量に対する静岡県産シェアが上昇しており、現在国内の41%を占めている。県内の主産地は、浜松市、牧之原市である。

近年は施設内の環境計測装置や高度環境制御装置の導入が普及してきている。

【データ】

年度	H30	R元	R2	R7 目標	R7/R 元
産出額(億円)	16	15	14	18.4	123%
作付面積(ha)	27	26	25	27	102%
10a当たり出荷量(千本)	216	217	216	228	105%

イ 課題と振興方策

現状と課題	振興方策
① 生産コストが増大しており、コスト削減技術の導入が必要である。また、夏季の高温の影響により、需要期の10～11月の収穫量の減少がみられるため、高温対策技術の確立が求められている。	<ul style="list-style-type: none"> ヒートポンプを活用した夜間冷房、遮光・遮熱資材等を活用して、高温障害対策を実施し、生産性の向上を図る。 環境制御装置を活用した施設内環境の最適化により、生産性向上を図る。
② 土壌病害の発生が問題になっており、土壌病害対策技術の導入が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 環境への負荷が少ない土壌消毒技術の確立を図る。 養液栽培・隔離栽培技術の推進を支援する。
③ 日持ち性向上に向けた栽培技術の確立が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 管理技術のマニュアル化やチェックリストによる管理技術の向上を図る。
④ 市場占有率の高い首都圏マーケットに対する販売促進、信頼性の更なる向上が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 出荷予測数量等細かい情報提供や首都圏量販店等における販売促進を図る。 マーケットインの視点を入れた品種を選定し、日持ち向上技術を確立する。
⑤ 環境に配慮した生産への取組	<ul style="list-style-type: none"> IPM等に基づいた病害虫管理、養液分析等に基づく適正な施肥管理により、環境負荷の少ない生産を実践する。 養液栽培の排液や培地を適切に処理し、環境に配慮した生産を実践する。

(4) 切枝

ア 現状

県西部地域を中心に、ユーカリやコデマリ、シキミ等多品目が栽培されているが、生産者の高齢化や中山間地での生産により、作付面積、出荷量が減少している。

ユーカリはアレンジメントなどの需要の高まりにより、販売単価は安定しており、産出額もほぼ一定で推移している。近年は、茶園や耕作放棄地からの転換により、枝物を新規品目として導入する産地がみられる。また、定年退職後に、切枝栽培を開始する生産者も見られる。

【データ】

年度	H30	R元	R2		R7 目標	R7/R元
産出額(億円)	16	18	16	➡	23.5	131%
作付面積(ha)	427	419	421		430	103%
出荷量(千本)	31,800	31,500	31,200		32,300	103%

イ 課題と振興方策

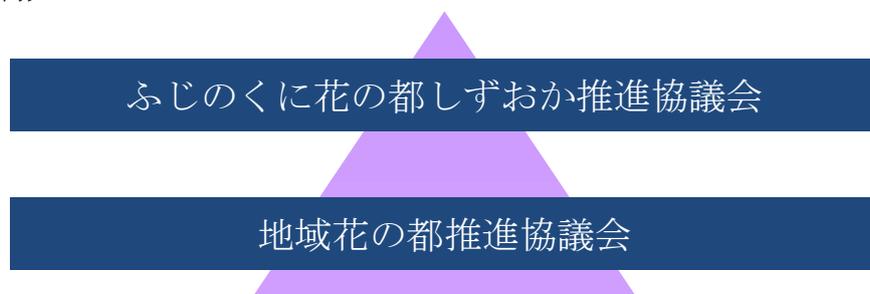
現状と課題	振興方策
①栽培に適した品目を選定し、耕作放棄地や茶園等からの転換に導入していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 生産者組織の活動の中で、栽培実証を行い、生産導入品目を選定する。 既存の花き生産者の複合品目としての導入を図る。
②栽培経験の少ない生産者でも生産が行なえるよう技術的な支援を行う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 有望品目について、栽培管理技術のマニュアル化を作成し、産地づくりを図る。 種苗増殖技術及び仕立て方法を確立するとともに、産地内での技術習得を行う体制づくりを図る。

5 推進方法

基本構想、推進計画に基づく「花の都」づくりを県民参加の活動とするため、県内花き関係機関や団体、生花・園芸店及び県などで構成する「ふじのくに花の都しずおか推進協議会」を設置し、情報の共有化、連携強化を進め、新たな需要の創出や消費の拡大に向けた取組を行う。

地域（賀茂、東部、富士、中部、志太榛原、中遠、西部の7農林事務所単位）においては、市町や生産者団体、オープンガーデン開設者、花の会及び県農林事務所などで構成する「地域花の都推進協議会」を設置し、花育講座、オープンガーデン開設指導、花き生産振興など、地域に実情に即した「花の都」づくりを進める。

〔推進体制〕



□ 県の推進体制

名 称	ふじのくに花の都しずおか推進協議会
構 成 員	県（事務局） 生産者団体 花き市場 生花・園芸店 華道連盟 花の会連合会 等
事業内容	・ 「花の都」づくりの進め方の検討 ・ 推進計画に基づく「花の都」づくりの取組推進 等

□ 地域の推進体制

名 称	地域花の都推進協議会
構 成 員	県農林事務所（事務局） 市町 生産者団体 生花・園芸店 オープンガーデン開設者 花の会 等
事業内容	花育講座 花き生産振興 等 地域の実情に即した事業を実施 等

参考

1 現状のデータ

(1) 生産

ア 花きの産出額

○ 静岡県は全国有数の花の生産県（花きの産出額：全国4位 令和2年）

花き産出額の全国順位（令和2年）

順位	道県名	産出額 (億円)	前年比	全国シェア
1位	愛知	497*	91.2%	16.1%
2位	千葉	161	92.5%	5.2%
3位	福岡	159	94.6%	5.2%
4位	静岡	153	93.3%	5.0%
5位	埼玉	151	99.3%	4.9%
6位	茨城	145	109.8%	4.7%
7位	長野	132	95.0%	4.3%
8位	北海道	129	100.8%	4.2%
9位	鹿児島	113	93.4%	3.7%
10位	熊本	86	89.6%	2.8%
全 国		3,080	94.4%	100%

※ 生産農業所得統計（農水省統計部）

静岡県の花きの品目別全国順位（令和2年）（ ）内は産出額 単位：億円

順位	1位	2位	3位	4位	5位
品目	ガーベラ (14)	切枝 (16) バラ (14) 観葉植物 (19)	パンジー (2)	切葉 (3)	花木類 (3) 洋ラン(切花)(2)

※ 生産農業所得統計他（農林水産省）

○ 花きの産出額は減少傾向にあるがここ数年は横ばい。

静岡県の花きの農業産出額の推移（単位：億円）

年	平成 12	17	22	27①	30	令和元	2 ②	②/①
花き a	231	197	177	177	157	164	153	86%
県産出額全体 b	2,800	2,516	2,123	2,204	2,120	1,979	1,887	86%
a/b	8.2%	7.8%	8.3%	8.0%	7.4%	8.3%	8.1%	

※ 生産農業所得統計（農林水産省）

イ 花きの作付面積

○ 花きの作付面積は減少傾向

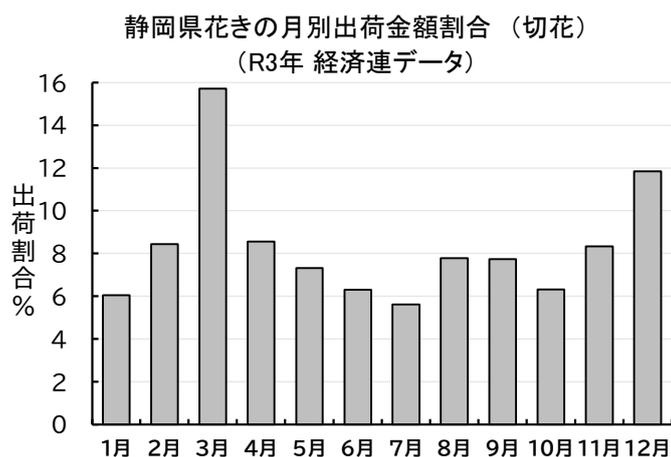
静岡県の花の作付面積の推移（単位：ha）

年	平成 12	17	22	27①	30	令和元	2 ②	②/①
花き a	1,322	1,075	938	893	852	840	834	82%
うち切花類	624	459	402	362	327	323	316	87%
切枝	546	487	430	435	427	419	421	97%
鉢物類	87	80	63	60	62	62	61	78%
花壇苗	65	48	43	36	36	36	36	75%
県栽培面積全体 b	73,600	68,700	63,600	60,000	—	—	—	—%
a/b	1.8%	1.6%	1.5%	1.5%	—	—	—	

※ 農産物作付面積調査他（農林水産省）

ウ 流通期

○年間を通じて出荷される県産花き



エ 生産者

○ 経営感覚に優れた多数の生産者

- 花きビジネス経営体数：24 経営体（令和3年度）

※ ビジネス経営体：①②③④の条件をすべて満たす経営体

- ① 経営が継承されていく永続的な経営体
 - ② 雇用による労働力を確保している
 - ③ 企業として一定以上の販売規模を持ち、成長を志向している
 - ④ マーケティング戦略に基づくサービスや商品を提供している
- 花き生産者数：1,671 戸（令和2年）（全国3位）

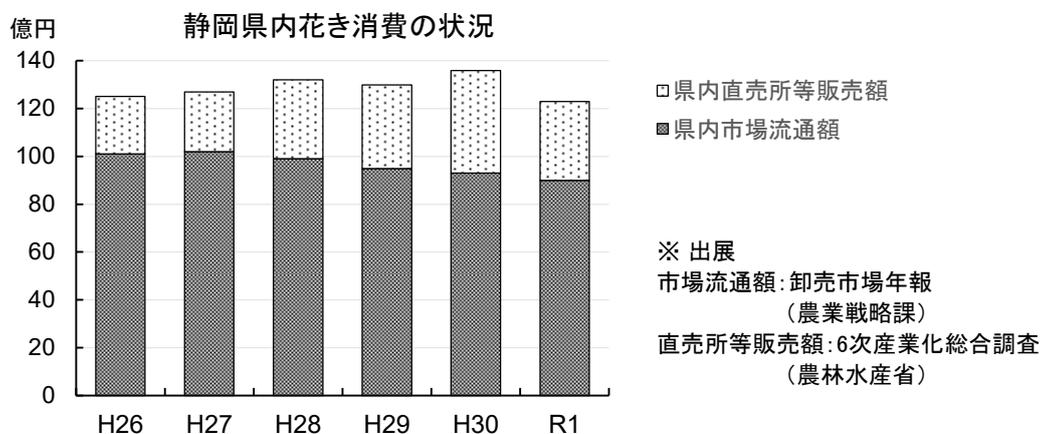
○ オリジナル品種の開発力

- ・ 花き生産者による育種（バラ、キク、コチョウラン、デンドロビウム等）
69 品種
- ・ 静岡県農林技術研究所による育種と普及（マーガレット、キク）
43 品種（登録抹消品種を含む）（令和3年）

(2) 消費

ア 花の消費量

- 静岡県内の花きの市場流通額はわずかに減少傾向にある一方、県内直売所等販売額はほぼ一定で推移している。



イ 消費形態

- 消費形態は個人消費が中心

花の消費形態 (単位: 億円)

区分	平成 29	30	令和元
個人消費	8,220	8,603	8,407
業務用需要	2,786	2,934	2,531

※ 花きの現状について (農林水産省)

(3) 地域づくり

ア 地域花壇・オープンガーデンなどの活動

○ 地域花壇やオープンガーデンなどの活動が盛んで関わる人材が豊富

- ・ ふじのくに花の都しずおか・花緑コンクールの応募点数

年度	平成 30	令和元	2	3
応募点数	71	82	75	195

- ・ オープンガーデン公開庭数（令和3年11月現在）

年度	平成 30	令和元	2	3
地区数	6	6	6	6
開設数	212	204	200	206

※ 6地区（伊東市、富士宮市、富士市、静岡市、中遠地域、浜松市）

- ・ 花の都しずおかアドバイザー登録者数（令和3年11月現在）

年度	平成 30	令和元	2	3
登録者数	106	108	110	104

- ・ 花の会会員数

年度	平成 30	令和元	2	3
団体数	46	45	45	43
会員数	10,277	6,344	6,163	5,650

- ・ 全国花のまちづくりコンクール入賞点数

年度 (回次)	平成 30 (第 28 回)	令和元 (第 29 回)	2 (第 30 回)	3 (第 31 回)
応募総数	1667	1543	1690	1031
入賞数	77	81	101	105
うち県内出品者	11	11	9	11

イ 花に関わる名所・施設

○ 花に関する名所、施設が豊富

東部・伊豆地域			
熱海梅園	熱海市	下田公園のアジサイ	下田市
小室山つつじとつばき園	伊東市	修善寺自然公園のもみじ林	伊豆市
河津桜並木	河津町	田んぼの花畑と桜並木	松崎町
河津バガテル公園	河津町	秩父宮記念公園	御殿場市
中部地域			
御殿山の桜	静岡市清水区	寸又峡の紅葉	川根本町
紅葉山庭園	静岡市葵区	勝間田公園のツツジ	牧之原市
木屋川沿いの桜並木	焼津市	大鐘家のアジサイ	牧之原市
蓮花寺池公園の藤	藤枝市	アロエランド	牧之原市
家山の桜トンネル	島田市		
西部地域			
加茂花菖蒲園	掛川市	大草山の昇竜しだれ梅園	浜松市西区
香勝寺のキキョウ	森町	浜名湖ガーデンパーク	浜松市西区
高松山可睡斎のボタンとユリ	袋井市	はままつフラワーパーク	浜松市西区
渋川つつじ公園	浜松市北区	カタクリの里	浜松市天竜区
龍潭寺庭園	浜松市北区		

※ 「ふじのくに花めぐり」掲載名所・施設数：89

引用資料

- ・ 静岡県花き園芸の生産と流通（花き白書） 令和3年3月 農芸振興課

ふじのくに「花の都しずおか」づくり 推進計画
令和4年3月
静岡県経済産業部農業局農芸振興課